

令和6年度

必履修科目に関するシラバス
(令和4年度入学生)

2

桜井高等学校

令和6年度シラバス

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位	2
学科	土木科・生活環境科	学年	3年	担当	米澤
教科書	実教出版「詳述歴史総合」		補助教材	浜島書店「プロムナード世界史」 浜島書店「プロムナード日本史」	
科目の概要と目標	世界とそのなかの日本の近現代史を学び、世界と日本の歴史的なつながりや現代社会の諸問題がどのような歴史を経て起きているのかを主体的に考察することで、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う。				
単元	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
歴史の扉	高校の歴史学習の動機付けと以後の学習に必要な歴史学習の基本的な技能や学び方を身につけさせる。	私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象が日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とのつながりの中で起きていることを理解している。	近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現している。	「歴史総合」を学ぶ意義や目的、歴史的な考察の方法やその特質について、主体的に理解を深めようとしている。	
第1章 近代化への胎動	・18世紀のアジアや日本における生産と流通 ・アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易	18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会やヨーロッパの近代市民社会を理解している。	18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。	前近代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成	・産業革命と交通・通信手段の革新 ・工業化と世界史上の形成 ・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向	産業革命と交通・通信手段の革新、工業化と世界史上の形成、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解している。	政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。	近代ヨーロッパの歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
第3章 アジアの変容と日本の近代化	・アジア諸国と欧米諸国との関係の変容 ・日本の開国 ・明治維新と大日本帝国憲法の制定	日本の開国、明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などと関連づけて、立憲体制と国民国家の形成を理解している。	産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。	19世紀半ばのアジアと世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
第4章 帝国主義の時代	・列強の進出と植民地の形成 ・日清・日露戦争	列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解している。	帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。	19世紀末～20世紀初頭の世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
第5章 第一次世界大戦と大衆社会	・第一次世界大戦の展開 ・日本やアジアの経済成長 ・ソ連の成立とアメリカ合衆国の台頭 ・ナショナリズムの動向と国際連盟の成立	総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。	第一次世界大戦の性格と惨禍、大戦後の国際協調体制の特徴、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現している。	1910～1920年代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
第6章 経済危機と第二次世界大戦	・世界恐慌 ・ファシズムの伸張 ・日本の対外政策 ・第二次世界大戦の展開 ・大戦後の国際秩序 ・日本の国際社会への復帰	・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策、第二次世界大戦の展開などを基に、国際協調体制の動揺を理解している。 ・第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。	各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰などを多面的・多角的に考察し、表現している。	第二次世界大戦前後の世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
第7章 冷戦と脱植民地化	・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国 ・冷戦下の地域紛争 ・軍備拡張や核兵器の管理 ・日本の高度経済成長	脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理、日本の高度経済成長などを基に、国際政治の変容を理解している。	日本の高度経済成長の背景と影響、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。	1950～1970年代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
第8章 多極化する世界	・石油危機 ・アジアの諸地域の経済発展 ・市場開放と経済の自由化 ・情報通信技術の発展	石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解している。	市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。	1970～80年代の世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
第9章 グローバル化と現代世界	・冷戦の終結 ・民主化の進展 ・地域統合の拡大と変容 ・地域紛争の拡散	冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解している。	冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。	1989年以降の世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
観点別評価に対する評価方法		定期考査、準拠ノート、ワークシート	定期考査（資料読解・論述問題）、準拠ノート、ワークシート	討論や発表、ワークシート	

令和6年度シラバス

教科	理科	科目	化学基礎	単位	2
学科	普通科	学年	3年	担当	近藤
教科書	高等学校 化学基礎	補助教材	チェック&演習 化学基礎		
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・化学が物質を対象とする科学であることや化学が人間生活に果たしている役割を理解できる。 ・原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解できる。 ・化学反応の量的関係、酸と塩基及び酸化還元反応の基本的な概念を理解し、日常生活に関連付けて考察できる。 				
単元	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
序章 化学の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会を支える身近な物質 ・物質を対象とする学問である化学の特徴 	<p>化学が物質やその変化を対象とする学問であることを理解している。</p>	<p>物質の性質を調べる活動において、科学的に探究する方法を提案したり、実験結果を科学的に判断したりしている。</p>	<p>日常生活や社会を支える身近な物質に注目し、科学に対する興味・関心を高め、意欲的に取り組もうとしている。</p>	
第1編 物質の構成と化学結合	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の基本操作 ・単体や化合物 ・粒子の熱運動と絶対温度 ・原子の構造 ・元素の周期律 ・イオン結合の物質の性質 ・共有結合の物質の性質 ・金属結合の物質の性質 ・分子の性質 	<ul style="list-style-type: none"> ・物質が混合物と純物質、および単体と化合物に分けられることを理解している。 ・イオンの表し方やイオン化エネルギーについての知識を身に付けている。 ・各結晶の性質について理解し、知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解している。 ・物質の性質を調べる実験を通して、化学結合と結晶の性質の関係を考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとしている。 ・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとしている。 	
第2編 物質の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・物質質量と粒子数、質量、気体の体積、モル濃度との関係 ・化学反応式と量的関係 ・酸と塩基の性質 ・水素イオン濃度とpH ・中和反応の量的関係、滴定曲線 ・酸化還元反応 ・金属のイオン化傾向 ・電池や電気分解 	<ul style="list-style-type: none"> ・物質質量と粒子数、質量、気体の体積、モル濃度との関係を理解している。 ・中和反応に関与する物質の量的関係を理解している。 ・酸化還元反応の利用例として、電池や電気分解などがあることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・化学反応式をもとに物質の量的関係を判断している。 ・実験で得られたデータやグラフから、結果を科学的に考察している。 ・中和反応や酸化還元反応の滴定結果から、溶液の濃度を判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に探究しようとしている。 ・酸、塩基や中和反応に関心をもち、意欲的に探究しようとしている。 ・燃烧、腐食などの反応に興味をもち、意欲的に探究しようとしている。 	
終章 化学が拓く世界	<ul style="list-style-type: none"> ・化学と日常生活 	<ul style="list-style-type: none"> ・「化学基礎」で学んだ事柄が、日常生活や社会を支える科学技術と結びついていることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「化学基礎」で学んだ事柄が日常生活でどのようにいかされているかを教科書の題材外にも範囲を広げて考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「化学基礎」で学んだ事柄が日常生活でどのようにいかされているかに注目し、意欲的に探究しようとしている。 	
観点別評価に対する評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・定期考査 	

令和6年度シラバス

教科	理科	科目	生物基礎	単位	2
学科	普通科	学年	3年	担当	澤田
教科書	数研出版 生物基礎		補助教材	新課程 大学入学共通テスト対策 チェック&演習 生物基礎	
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。 				
単元	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
予備学習	顕微鏡の基本操作・観察 マイクロメーターによる測定 顕微鏡の像のスケッチ。	実験器具を正しく扱い、安全に実験を行っている。	顕微鏡を用いてタマネギの表皮を観察し、スケッチしている。	顕微鏡を用いてタマネギの表皮を観察し、どのような構造、働きがあるか見つけ出そうとしている。	
生物の特徴 生物の多様性と共通性	脊椎動物の四肢の有無、呼吸の仕方、殖え方などの特徴について考える。生物の基本的な特徴を理解する。	共通祖先から由来した生物が共通の特徴をもつことについて理解している。細胞の構造と真核細胞、原核細胞について理解している。	脊椎動物の特徴の比較から、生物の共通性と起源の共有には関連性があることを見いだして考察している。	脊椎動物の特徴の比較を主体的に考察して表現しようとしている。	
生物の特徴 エネルギーと代謝 呼吸と光合成	生活のさまざまな場面でエネルギーを利用していることに気づき、生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。	ATPが呼吸や光合成など生体内で、エネルギーの受け渡しに必ず関係することを理解している。	ATPが代謝におけるエネルギーの授受に必ず関係し、ATPの構造と生物が利用できるエネルギーが蓄えられている結合について理解している。	生命活動はエネルギーを用いていることを、実習1通して日常生活と関連付けて考察しようとしている。	
遺伝子とその働き 遺伝情報とDNA	遺伝情報を担うのが遺伝子であり、遺伝子の本体はDNAであることを理解する。	遺伝は遺伝物質であるDNAによって担われていることを理解している。	実験を通して、生物にはDNAが共通して存在することを思考している。	実験に主体的に取り組もうとしている。	
遺伝子とその働き 遺伝情報の複製と分配	塩基の相補性によりDNAが正確に複製されることを理解する。	DNAの複製のしくみは、原核生物、真核生物を問わず、すべての生物で共通していることを理解している。	DNAの2本鎖が解離した状態と複製後の状態を示す資料から、塩基の相補性がDNAの複製のしくみに関わっていることを見いだしている。	DNAの一方のヌクレオチド鎖の塩基配列により他方のヌクレオチド鎖の塩基配列が決まることに気づき、表現しようとしている。	
	細胞周期の概要を理解し、複製されたDNAが正確に分配されることを理解する。	細胞周期の間期にDNAの複製が行われ、分裂期にDNAが等しく分配され、結果としてどの細胞でも同じ遺伝情報をもつことを理解している。	思考学習を通して、細胞周期の各時期がグラフにどう現れるか思考している。間期の細胞と分裂期の細胞の数をグラフから計算している。	DNAの分配について、学習した用語どうしのつながりを整理し、振り返ろうとしている。	
遺伝子とその働き 遺伝情報の発現	タンパク質の構造やアミノ酸の構造について基本的事項を理解する。	アミノ酸の種類と並び方によって、多様なタンパク質が生じることを理解している。	アミノ酸について、配列の違いによって生じ得るペプチドの種類を思考している。	身近な食材にタンパク質が含まれていることに気づき表現している。	
	タンパク質の合成過程から遺伝子の発現を関連づける。	遺伝子とその働きについて、遺伝情報とタンパク質の合成のことを理解するとともに、遺伝子の発現に関連づけている。	タンパク質合成について、DNAの塩基配列とアミノ酸配列の間にある関係性を見いだして表現している。	個体を構成する細胞は遺伝的に同一だが、細胞の機能に応じて発現している遺伝子が異なることを主体的に考察している。	
ヒトの体内環境の維持 体内での情報伝達と調節	体内環境と体液の関係について理解するとともに、神経系が体内環境に関わっていることを理解する。	神経系の構成や情報伝達のしくみについて理解している。体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを理解している。	実験3の運動の前後の呼吸数や脈拍数などの体の変化から、体には体内環境の変化という情報を伝達する経路があることに気づき、考察している。	実験3の結果を主体的に考察して表現しようとしている。	
ヒトの体内環境の維持 体内環境の維持のしくみ	体内環境を一定に保とうとする調節のしくみを理解する。	内分泌腺や分泌されるホルモン、その作用について理解している。ホルモンの受容や機能するしくみについて理解している。	血糖濃度の変化とインスリン、グルカゴンのはたらきとの関係を考察している。	血糖濃度の調節のしくみについて、学習した用語どうしのつながりを整理し、振り返ろうとしている。	
ヒトの体内環境の維持 免疫のはたらき	免疫について、免疫の働きのことを理解するとともに、異物を排除する防御機構が備わっていることを見いだす。	免疫の働きの基本的な概念や原理・法則などを理解している。一次応答と二次応答のしくみと、免疫記憶を応用した予防接種のしくみを理解している。	免疫の働きについて、問題を見いだし、科学的に考察し表現している。一次応答と二次応答における抗体生産量の変化を示した資料から、同じ疾患に二度とかかりにくい理由に気づき、考察している。	免疫の働きに関する事象・現象に進んで関わり、見直しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
生物の多様性と生態系 植生と遷移	植生と遷移について、植生と遷移のことを理解するとともに、遷移の要因を見いだして表現する。植生と遷移に関する事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	植生と遷移について、基本的な概念や原理・法則などを理解している。植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移の要因として土壌や光環境について見いだして理解している。遷移について、モデル的な過程とその要因を理解している。	森林の構造と相対照度のデータから、明るさの変化を見いだして表現している。資料から、土壌や光環境の変化によって遷移が進行することに気づき、考察している。	植生と遷移に関する事象・現象に進んで関わり、見直しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。ギャップ更新が起こらない場合の極相林について、論理的に考察しようとしている。	
生物の多様性と生態系 植生の分布とバイオーム	環境に適応した植生が成立し、植生を構成する植物と生態系によってバイオームが形成されることを理解する。	遷移の結果、気候に応じたバイオームが形成されることを理解している。世界のバイオームについて、気候や構成する生物種を理解している。日本のバイオームについて、遷移と関連づけて理解している。	森林、草原、砂漠が成立する場所の年平均気温と年平均気温から、環境条件によって植生が異なることに気づき、考察している。	気温、降水量とバイオームの関連性を主体的に考察して表現しようとしている。地球温暖化が進むと、日本のバイオームの水平分布や垂直分布がどのように変わるのかについて、考察しようとしている。	
生物の多様性と生態系 生態系と生物の多様性	生態系と生物の多様性について理解する。資料学習などを通して、生態系における生物の種多様性を見いだす。	生態系と生物の多様性、の基本的な概念や原理・法則などを理解している。	生態系と生物の多様性について、問題を見いだし見直しをもって資料学習などから、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	生態系と生物の多様性に関する事象・現象に進んで関わり、見直しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
生物の多様性と生態系 生態系のバランスと保全	生態系とその保全に関する事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	生態系とその保全について生態系のバランスと保全の基本的な概念や原理・法則などを理解している。	生態系のバランスと保全について、問題を見いだし見直しをもって資料学習などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	生態系のバランスと保全に関する事象・現象に進んで関わり、見直しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
観点別評価に対する評価方法		発言、ワークシート記述、定期考査	発言、ワークシート記述、定期考査	実験レポート、発言、ワークシート記述	

令和6年度シラバス

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位	2
学科	土木科・生活環境科	学年	3	担当	廣田
教科書	第一学習社 高等学校 科学と人間生活	補助教材	第一学習社 新課程版 ネオパルノート科学と人間生活		
科目の概要と目標	自然の事物現象に対する関心や探求心を高め、目的意識を持って観察、実験を行い、科学的に探究する能力と態度を育てる。 科学の基本的な概念や思考力を身につける。				
単元	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
序章 科学技術の発展	<ul style="list-style-type: none"> 情報伝達技術の発展 エネルギー資源の活用と交通手段の発展 医療技術の発展 	科学技術の発展と現代社会での科学技術の役割について理解している。	昔と比較して豊かな生活を送ることができるようになったことに対する科学技術の役割について考えている。	現代社会において、科学技術の発展が生活を便利で豊かにしてきた様子とその役割を調べようとしている。	
第1章 物質の科学 第1節 材料とその利用 第2節 衣料と食品	<ul style="list-style-type: none"> プラスチックの分類、性質、用途 金属の性質、製錬と合金 資源の再利用 繊維 栄養素 	<ul style="list-style-type: none"> プラスチックの構成粒子である原子や共有結合、金属の一般的な性質や金属結合について理解している。プラスチックを加熱し熱に対する性質の違いを調べることができる。 繊維の種類と性質、構造と染色について理解している。五大栄養素の分類と構造、性質とはたらきを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> プラスチックや金属の性質の違いや化学的な構造上の特徴から用途の違いがあることを考察することができる。 天然繊維や化学繊維の化学的性質の違いや構造上の特徴から用途の違いについて考察することができる。食品に含まれる各栄養素の生体内におけるはたらきについて表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> プラスチックの種類、性質および用途、特殊な機能をもったプラスチックについて調べようとしている。 身のまわりにある繊維について興味をもち、その種類や性質、衣料材料の構造と加工について理解しようとしている。 	
第2章 生命の科学 第1節 ヒトの生命現象 第2節 微生物とその利用	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝情報とそのはたらき 体内環境の維持と免疫 生物と光 微生物 発酵と腐敗 	<ul style="list-style-type: none"> DNAとタンパク質の合成のされ方について理解している。 血糖濃度の調整と糖尿病、免疫について理解している。ヒトの視覚について理解している。 身のまわりには多様な微生物が存在することを理解している。生態系内の微生物の役割について理解している。微生物の利用の広がりについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> タンパク質の種類は、構成アミノ酸の数と配列順序によって決まり、それがDNAの塩基配列にもとづくものであることを考察できる。血糖濃度の調節のしくみと糖尿病、免疫のしくみについて説明できる。 自然界のどのような場所にどのような微生物が生息しているか、どのような役割を果たしているかを考察することができる。 	体をつくるタンパク質など、身近なタンパク質について調べようとしている。ヒトの視覚の性質や錯視の例などについて調べようとしている。光が体内時計やヒトの行動に与える影響について振り返って、日常生活や社会に生かそうとしている。	
第3章 熱や光の科学 第1節 熱の性質とその利用 第2節 光の性質とその利用	<ul style="list-style-type: none"> 熱と仕事 仕事とエネルギー 光の性質 光とレンズ 	<ul style="list-style-type: none"> 絶対温度、熱運動、熱量の保存、熱容量と比熱について理解している。 熱伝導、対流、熱放射、および状態変化と熱について理解している。 仕事と熱、電流と熱の関係、エネルギーの移り変わりやエネルギーの保存について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 熱と熱運動について考察できる。物体の熱量や熱容量を計算することができる。 光の反射・屈折・分散・散乱の現象、光の回折や偏光について、科学的に思考できる。 	熱の伝わり方やエネルギーの移り変わりについて興味を持つようになっている。光の性質がどのように利用されているか調べようとしている。	
第4章 地球や宇宙の科学 第1節 自然景観と自然災害 第2節 太陽と地球	<ul style="list-style-type: none"> 日本と火山 自然災害 水のはたらきと地表の変化 太陽と太陽系 惑星と天体 	<ul style="list-style-type: none"> 日本列島と、その付近のプレート動きを理解している。自然災害と防災について理解している。 太陽系の構造を理解している。地球型惑星と木星型惑星との相違点を理解している。天体の動き、太陽や月の動きについて理解している。 	自然災害が与える影響について日常生活に結びつけながら考えようとしている。太陽や月の様子などについて、比較して考えることができている。	自然災害が与える影響について興味を持つようになっている。太陽の現象が人間生活にどのような影響をおよぼすか調べようとしている。	
観点別評価に対する評価方法		<ul style="list-style-type: none"> 実験レポート 小テスト 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 実験レポート 小テスト 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 実験レポート 小テスト 定期考査 	

令和6年度シラバス

教科	保健体育	科目	体育	単位	2
学科	普通科	学年	3年	担当	近堂 横山 島端 西島
教科書	大修館「新高等保健体育」		補助教材	大修館「Active Sports 2022」	
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 ・自己や仲間の課題や練習方法について伝え、運動を継続して楽しむための関わり方を見付けるようにする。 ・ルールやマナーを大切に、運動に自主的に取り組もうとする。 				
単元	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
体づくり運動	体の使い方の気付き 体の動きを高める運動 効率の良い組み合わせの実践 バランスの良い組み合わせの実践	運動を継続する意義、体の構造、運動の原則について理解している。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	
体育理論	生涯スポーツの見方・考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツには、乳・幼児期から高齢期に至るライフステージごとに、体格や体力の変化などに見られる身体的特徴、精神的ストレスの変化などに見られる心理的特徴、人間関係や所属集団の変化などに見られる社会的特徴に応じた多様な楽しみ方があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・各ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方は、個人のスポーツ経験や学習によって育まれたスポーツに対する欲求や考え方、健康や体力を求める必要性や個人の健康目標などによっても変化するものであることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方やライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方について、自己や自己を取り巻く環境の変化を予想し、自己や社会についての課題を発見すること。 ・豊かなスポーツライフが広がる未来の社会について、これまで学習したことを基に、将来の自己のスポーツ設計や未来の社会についての自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えること。 	豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。	
	ライフスタイルとスポーツの楽しみ方	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたって「する、みる、支える、知る」などのスポーツを多様に継続するためには、ライフステージに応じたスポーツの楽しみ方を見付けることに加え、それぞれの生き方や暮らし方といったライフスタイルに応じた無理のないスポーツへの関わり方が大切であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・ライフステージやライフスタイルによっては、仕事の種類や暮らし方によって運動に関わる機会が減少することもあるため、仕事と生活の調和を図ること、運動の機会を生み出す工夫をすること、多様な関わり方を実現するための具体的な設計の仕方があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 			
	スポーツ推進のための施策と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・国や地方自治体は、スポーツの推進のために様々な施策を行っており、人や財源、施設や用具、情報などを人々に提供するなどの条件整備を行っていること、また、スポーツの推進を支援するために、企業や競技者の社会貢献、スポーツボランティアや非営利組織（NPO等）などが見られるようになっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 			
	スポーツで「未来」を創る	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを、人生に潤いをもたらす貴重な文化的財産として未来に継承するためには、スポーツには健康で生き生きとした生活をもたらしたり、様々な人々とつながったりするなどの可能性がある反面、過度な運動による健康への悪影響や勝利を優先する余り人間関係を悪化させるなどの問題点があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・人生に潤いをもたらす適切な関わり方を継続するためには、「する」だけでなく、豊かなスポーツライフを実現するための「みる」、「支える」、「知る」などの卒業後のスポーツへの多様な関わり方を構想したり、設計したりすることが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 			

選択領域 (A,B,C,Dの中から2領域以上選択)					
陸上競技・・・A	走・跳・投の基礎基本 短距離走 リレー	○知識 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。	○技能 短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受渡しで次走者のスピードを十分に高めることができる。	動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。
ダンス・・・B	創作ダンス 発表会	○知識 ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などについて理解している。	○技能 創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方で変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ることができる。	表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。
球技・・・C	基本技能 課題に応じた練習 簡易ゲーム	○知識 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。	○技能 安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間に考えたことを他者に伝えている。	球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについて話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。
【ゴール型】 サッカー バスケットボール ハンドボール			○技能 役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。		
【ネット型】 テニス バレーボール バドミントン			○技能 安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができる。		
【ベースボール型】 ソフトボール					
【武道】・・・D	伝統的な考え方 基本動作 連絡技 簡易試合	○知識 伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などについて理解している。	○技能 相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技、連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防をすることができる。	攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。
剣道	伝統的な考え方 基本動作 しかけ技・応じ技 簡易試合		○技能 相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防をすることができる。		
観点別評価に対する評価方法		観察 技能テスト 学習カード	観察 (発表、話合い、発言) 学習カード	観察 (発表、話合い、発言) 学習カード	

令和6年度シラバス

教科	保健体育	科目	体育	単位	2
学科	土木科	学年	3年	担当	横山
教科書	大修館「新高等保健体育」		補助教材	大修館「Active Sports 2022」	
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 ・自己や仲間の課題や練習方法について伝え、運動を継続して楽しむための関わり方を見付けるようにする。 ・ルールやマナーを大切に、運動に自主的に取り組もうとする。 				
単元	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
体づくり運動	<p>体の使い方の気付き</p> <p>体の動きを高める運動</p> <p>効率の良い組み合わせの実践</p> <p>バランスの良い組み合わせの実践</p>	<p>運動を継続する意義、体の構造、運動の原則について理解している。</p>	<p>自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。</p>	
体育理論	生涯スポーツの見方・考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツには、乳・幼児期から高齢期に至るライフステージごとに、体格や体力の変化などに見られる身体的特徴、精神的ストレスの変化などに見られる心理的特徴、人間関係や所属集団の変化などに見られる社会的特徴に応じた多様な楽しみ方があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・各ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方は、個人のスポーツ経験や学習によって育まれたスポーツに対する欲求や考え方、健康や体力を求める必要性や個人の健康目標などによっても変化するものであることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方やライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方について、自己や自己を取り巻く環境の変化を予想し、自己や社会についての課題を発見すること。 ・豊かなスポーツライフが広がる未来の社会について、これまで学習したことを基に、将来の自己のスポーツ設計や未来の社会についての自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えること。 	<p>豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。</p>	
	ライフスタイルとスポーツの楽しみ方	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたって「する、みる、支える、知る」などのスポーツを多様に継続するためには、ライフステージに応じたスポーツの楽しみ方を見付けることに加え、それぞれの生き方や暮らし方といったライフスタイルに応じた無理のないスポーツへの関わり方が大切であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・ライフステージやライフスタイルによっては、仕事の種類や暮らし方によって運動に関わる機会が減少することもあるため、仕事と生活の調和を図ること、運動の機会を生み出す工夫をすること、多様な関わり方を実現するための具体的な設計の仕方があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 			
	スポーツ推進のための施策と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・国や地方自治体は、スポーツの推進のために様々な施策を行っており、人や財源、施設や用具、情報などを人々に提供するなどの条件整備を行っていること、また、スポーツの推進を支援するために、企業や競技者の社会貢献、スポーツボランティアや非営利組織（NPO等）などが見られるようになっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 			
	スポーツで「未来」を創る	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを、人生に潤いをもたらす貴重な文化的財産として未来に継承するためには、スポーツには健康で生き生きとした生活をもたらしたり、様々な人々とつながったりするなどの可能性がある反面、過度な運動による健康への悪影響や勝利を優先する余り人間関係を悪化させるなどの問題点があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・人生に潤いをもたらす適切な関わり方を継続するためには、「する」だけでなく、豊かなスポーツライフを実現するための「みる」、「支える」、「知る」などの卒業後のスポーツへの多様な関わり方を構想したり、設計したりすることが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 			

選択領域 (A,B,C,Dの中から2領域以上選択)					
陸上競技・・・A	走・跳・投の基礎基本 短距離走 リレー	○知識 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。	○技能 短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受渡しで次走者のスピードを十分に高めることができる。	動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。
ダンス・・・B	創作ダンス 発表会	○知識 ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などについて理解している。	○技能 創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方で変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ることができる。	表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。
球技・・・C	基本技能 課題に応じた練習 簡易ゲーム	○知識 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。	○技能 安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間に考えたことを他者に伝えている。	球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについて話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。
【ゴール型】 サッカー バスケットボール ハンドボール	○技能 役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。				
【ネット型】 テニス バレーボール バドミントン	○技能 安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができる。				
【ベースボール型】 ソフトボール					
【武道】・・・D	伝統的な考え方 基本動作 連絡技 簡易試合	○知識 伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などについて理解している。	○技能 相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技、連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防をすることができる。	攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。
剣道	伝統的な考え方 基本動作 しかけ技・応じ技 簡易試合		○技能 相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防をすることができる。		
観点別評価に対する評価方法		観察 技能テスト 学習カード	観察 (発表、話合い、発言) 学習カード	観察 (発表、話合い、発言) 学習カード	

令和6年度シラバス

教科	保健体育	科目	体育	単位	2
学科	生活環境科	学年	3年	担当	西島
教科書	大修館「新高等保健体育」		補助教材	大修館「Active Sports 2022」	
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 ・自己や仲間の課題や練習方法について伝え、運動を継続して楽しむための関わり方を見付けるようにする。 ・ルールやマナーを大切に、運動に自主的に取り組もうとする。 				
単元	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
体づくり運動	<p>体の使い方の気付き</p> <p>体の動きを高める運動</p> <p>効率の良い組み合わせの実践</p> <p>バランスの良い組み合わせの実践</p>	<p>運動を継続する意義、体の構造、運動の原則について理解している。</p>	<p>自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。</p>	
体育理論	生涯スポーツの見方・考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツには、乳・幼児期から高齢期に至るライフステージごとに、体格や体力の変化などに見られる身体的特徴、精神的ストレスの変化などに見られる心理的特徴、人間関係や所属集団の変化などに見られる社会的特徴に応じた多様な楽しみ方があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・各ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方は、個人のスポーツ経験や学習によって育まれたスポーツに対する欲求や考え方、健康や体力を求める必要性や個人の健康目標などによっても変化するものであることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方やライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方について、自己や自己を取り巻く環境の変化を予想し、自己や社会についての課題を発見すること。 ・豊かなスポーツライフが広がる未来の社会について、これまで学習したことを基に、将来の自己のスポーツ設計や未来の社会についての自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えること。 	<p>豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。</p>	
	ライフスタイルとスポーツの楽しみ方	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたって「する、みる、支える、知る」などのスポーツを多様に継続するためには、ライフステージに応じたスポーツの楽しみ方を見付けることに加え、それぞれの生き方や暮らし方といったライフスタイルに応じた無理のないスポーツへの関わり方が大切であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・ライフステージやライフスタイルによっては、仕事の種類や暮らし方によって運動に関わる機会が減少することもあるため、仕事と生活の調和を図ること、運動の機会を生み出す工夫をすること、多様な関わり方を実現するための具体的な設計の仕方があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 			
	スポーツ推進のための施策と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・国や地方自治体は、スポーツの推進のために様々な施策を行っており、人や財源、施設や用具、情報などを人々に提供するなどの条件整備を行っていること、また、スポーツの推進を支援するために、企業や競技者の社会貢献、スポーツボランティアや非営利組織（NPO等）などが見られるようになっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 			
	スポーツで「未来」を創る	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを、人生に潤いをもたらす貴重な文化的財産として未来に継承するためには、スポーツには健康で生き生きとした生活をもたらしたり、様々な人々とつながったりするなどの可能性がある反面、過度な運動による健康への悪影響や勝利を優先する余り人間関係を悪化させるなどの問題点があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・人生に潤いをもたらす適切な関わり方を継続するためには、「する」だけでなく、豊かなスポーツライフを実現するための「みる」、「支える」、「知る」などの卒業後のスポーツへの多様な関わり方を構想したり、設計したりすることが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 			

選択領域 (A,B,C,Dの中から2領域以上選択)					
陸上競技・・・A	走・跳・投の基礎基本 短距離走 リレー	○知識 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。	○技能 短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受渡しで次走者のスピードを十分に高めることができる。	動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。
ダンス・・・B	創作ダンス 発表会	○知識 ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などについて理解している。	○技能 創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方で変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ることができる。	表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。
球技・・・C	基本技能 課題に応じた練習 簡易ゲーム	○知識 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。	○技能 安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間に考えたことを他者に伝えている。	球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについて話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。
【ゴール型】 サッカー バスケットボール ハンドボール			○技能 役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。		
【ネット型】 テニス バレーボール バドミントン			○技能 安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができる。		
【ベースボール型】 ソフトボール					
【武道】・・・D	伝統的な考え方 基本動作 連絡技 簡易試合	○知識 伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などについて理解している。	○技能 相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技、連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防をすることができる。	攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。
剣道	伝統的な考え方 基本動作 しかけ技・応じ技 簡易試合		○技能 相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防をすることができる。		
観点別評価に対する評価方法		観察 技能テスト 学習カード	観察 (発表、話合い、発言) 学習カード	観察 (発表、話合い、発言) 学習カード	

科目:課題研究	単位:3	学科:土木科	学年:3年
教科書:なし		補助教材:専門教科 各教科書他	
<p>科目の概要と目標: 土木分野に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、統合を図るとともに問題解決能力や自発的、創造性を育てる。</p>			
単元	学習内容	到達目標	
作品製作	テーマ毎に班分けする。	与えられた研究テーマから研究内容を設定する。 これまでに習得した知識や技術を活用し、更に新しい知識と技術を学びながら作品を完成させる。	
	1, 計画 ①テーマ ②年間計画	施工場所確認、目的・目標の確認、仕様、予算についての検討。	
	2, 事前調査 ①現地調査 ②基本計画	現況について下調べ。	
	3, 図面・見積 ①設計図 ②積算・見積	図面を作成し、必要な材料・物品を検討する。	
	4, 施工、管理 ①実施 ②問題点の解決	計画通りに作業を進める。 運用してみて問題があれば改善する。	
	5, 中間発表 ①資料作成 ②発表	ガンピなどにこれまでの取り組みをまとめ、中間発表する。	
	6, 成果の確認・片付け	施工前、施工後の比較。	
	7, プレゼンテーション準備 ①資料作成 ②プレゼン準備	・パワーポイントを使い自分たちが行った研究をまとめることができる。	
	8, 発表	・班で協力し、わかりやすい発表ができる。	
職業資格の取得	学習方法の企画・立案・実践	取得を希望する職業資格や各種検定試験の学習を通して、専門的な知識や技術を習得させ、自らの進路意識を高め、適切な進路選択に役立てさせる。	
<p>評価の方法: ・報告書の提出、中間発表、課題研究発表の内容で評価する。 ・積算と資格試験の演習の結果を評価する。</p>		<p>補足事項:</p>	

令和6年度シラバス

教科	家庭科	科目	課題研究	単位	2
学科	生活環境科	学年	3年	担当	籠浦 野寺 飯野
教科書	なし	補助教材	なし		
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付ける。 生活産業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 				
単元	学習内容	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
生活産業に関する課題を発見し、解決しよう	課題発見・課題設定	生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連付けられた知識や技術を身に付けている。	生活産業に関する課題を発見し、解決策を考察、探究している。 科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	生活産業に関する課題について自ら学び、課題の解決、生活産業の発展や社会貢献に向けて主体的かつ協働的に取り組んでいる。 生活産業に関する課題について、自分や家庭、地域の生活の充実向上、社会の発展を図るために実践しようとしている。 生活産業に関する課題について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。	
	作品製作	学習した知識と技術を活用するとともに、さらに発展させて高度な技術に挑戦している。	生活産業に関する課題の解決に向け、その根底にある理論を理解した上で創意工夫した作品を製作している。		
	調査、研究、実験 各種コンクールへの応募	基礎的・基本的な知識や技術を論理的に関連付けたり整理したりすることで、より理解を深め、実践できる確かな技術を習得している。	生活産業についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠に基づいて論理的に考察している。 解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。		
	産業現場等における実習	実際の・体験的な学習を行い、より深い知識と技術を習得している。	実際の・体験的な学習を通して、進路希望等における明確な目的意識をもつことができている。 体験を通して、勤労観、職業観、責任感、成就感等を体得している。		
	学校家庭クラブ活動	学校家庭クラブ活動を発展させ、専門科目で学習した知識と技術を活用している。	学校生活や地域の生活の充実向上を目指して課題を設定し、解決に向けて実践している。		
	課題研究発表会	情報を適切に理解し、効果的に表現する技術を身に付け発表している。	課題解決に向けて実践したことを、他者に伝わりやすいように工夫して効果的に表現している。		
職業資格を取得しよう	家庭科技術検定 職業に関する資格	自らの進路希望や興味・関心等に応じて学習計画を立案し、その計画に基づいて知識と技術を身に付けている。	学習計画に基づいて、知識と技術の深化、総合化や進路意識の明確化を図っている。	専門的な知識と技術の深化、総合化や進路意識の明確化に向けて主体的に取り組んでいる。	
観点別評価に対する評価方法		確認テスト ワークシート レポート	確認テスト ワークシート レポート グループワークの取り組み	ワークシート レポート 自己評価・相互評価 観察	